



《入会状況》 令和 4 年 1 月末日現在:正会員 3022名 ・ 賛助会員 85団体

会長のつぶやき

介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方について

次期、介護保険制度改正へ向けて、厚生労働省で新たに「介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目のあり方検討会」が開催されることになりました。開催要項には「令和 3 年度介護報酬改定における審議報告を踏まえ」とされており、また、「現行制度の貸与の原則や福祉用具の適時・適切 な利用、利用者の安全性の確保、保険給付の適正化等の観点を踏まえた検討」となっておりますが、「福祉用具貸与を利用している者に対するケアマネジメントについて」も検討することになりました。これは既に皆様ご存知の通りですが、昨年度来より財政制度等審議会(令和 2 年 11 月 2 日、令和 3 年 4 月 15 日)において、福祉用具貸与とケアマネジメントのあり方の見直しについて、「歩行補助杖、歩行器、手すり」については貸与から販売にすべきと、指摘が行われており、「福祉用具貸与のみを行うケアプランについては報酬の引き下げを行う等」として、居宅介護支援や介護予防支援等ケアマネジメントに要する給付の引き下げも併せて指摘が行われています。

会議の詳細につきましては厚生労働省ホームページより資料をご覧くださいと思いますのと、日本介護支援専門員協会 メールマガジン No.900 号をご覧くださいと思いますが、今後危惧されますのは、今回指摘されていますような介護保険サービスが1種類というケアプランに対する見解です。われわれ介護支援専門員は介護保険サービスが1種類でも、「基礎疾患があり医療機関との連携や医療保険による訪問看護やリハビリテーション等が必要な事例、食事支援や移動支援、行政機関や金融機関における手続きの支援、入退院時の支援や緊急時の駆けつけ訪問、通院の付き添い、介護予防のためのいわゆる「通いの場」への活動・参加支援」など、様々な調整を行った結果としてのサービス提供をしています。

また、「ケアマネジメントの結果、新型コロナウイルス感染予防のため、一時的に訪問系サービスや通所系サービスを中断して、感染状況が収まるまで福祉用具貸与のみとしている事例や、自立支援・介護予防や重度化防止の結果、福祉用具貸与のみとなっている事例」もあることもわかっています。

しかし、介護保険給付によるデータからだけでは実際に統計的に導きだされるのは単独のサービスとし
か見えないため、いわゆる「総費用・保険料負担の抑制」のための「適正化の対象」に関する優先順位とな
ってしまいます。一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が 60%を超え、また、これらの対象
者の平均年齢の上昇や自宅での孤立死も、都市部においてはここ 5～10 年で大きく増加し
ています(公財；長寿科学振興財団；[高齢者の独居問題 | 健康長寿ネット \(tyojyu.or.jp\)](https://tyojyu.or.jp))。



介護支援専門員が支援を行っているのは介護保険サービスだけではないことの、さらに見える化を図って
いく必要性を感じています。

公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 会長 濱田 和則

一般社団法人日本介護支援専門員協会 第 20 回近畿ブロック研究大会in京都報告

◇ シンポジストとしての参加報告 ◇

令和 4 年 1 月 22 日から 30 日までの期間、「変わる時代、常に寄り添うケアマネジャー」を大会テーマに一般社団法人日本介護支援専門員協会第 20 回近畿ブロック研究大会in京都が開催されました。思い起こせば令和 2 年の「第 19 回近畿ブロック研究大会 in 大阪」は新型コロナウイルスの影響のため開催を断念、翌年も開催を見合わせたため、実に 3 年ぶりの開催となりました。今回はコロナ対策として大会史上初めて全日程Webでの開催となりました。全日程で閲覧できるオンデマンド配信と最終日のライブ配信とで構成される大会は、過去に例がないため大会実行委員の皆様はさぞご苦勞をされたことと思います。また、参加者も初めての体験のため「研究大会は、現地に行って色々な人に会い、観光するのが楽しみなので、それができないのは残念。」という声や、「コロナ禍で出かけずに自宅で研究大会に参加できるのはありがたい。」など色々な声が聞かれました

私は、シンポジウム「寄り添うケアマネジャーの実践」にシンポジストとして参加しました。「介護保険施行時からケアマネジャーとして活動をしている人」ということで私がシンポジストになったのですが、福富昌城先生がコーディネーターをされるので、どんな珍回答でも福富先生なら何とかしていただけたと思い気を取り直しました。シンポジウムは事前に撮影をするのですが、そのことからして通常と要領が違うため少々戸惑いを感じました。当初は撮り直しも含んで時間を取っていただいていたのですが、色々と設定に時間がかかり、ほとんど一発撮りとなりました。さすがに他の先生方は堂々と落ち着いておられ、見事に一度の撮影で終わりましたが、私は焦りと緊張から立ち位置を間違えるなどスタッフの皆様にご迷惑をおかけしました。内容に関しては、二人の先生がターミナルのケースに寄り添う実践について発表され、私は地域で孤立した高齢者に寄り添う実践の発表となりました。福富先生、大会実行委員の皆様本当にありがとうございました。

ブロック活動部 海原義公

◇ 分科会の座長としての参加報告 ◇

今回は第一分科会（災害支援分野）の座長として参加しました。三演題が発表され、一つは「コロナ禍で仕事内容が軽減される中、利用者さんと向き合っていくことがこれで行けるのか？」悩む真摯なケアマネジャーの姿が映し出されていました。二つ目はコロナにどのように対応すれば良いか、多職種それぞれの問題を聞き出し、地域支部が中心になって対応の方法、感染予防の方法をテキスト化して研修会を開き顔の見える関係を構築していける過程を示され、多職種と連携することの重要性を明らかにされた大変素晴らしい模範となる活動の発表は優秀賞となるにふさわしい内容でした。最後に大阪の堺ブロックから BCP（事業継続計画）に関する報告としてどのように作成していくのか、道筋を示され今後の課題も定義されていました。この発表も三つある賞の一つに選ばれました。

他の分科会の演題も含めてどの発表も大会テーマ「変わる時代、常に寄り添うケアマネジャー」を体現するもので中身の濃いものでした。質の向上が叫ばれる中、発表された方々のようなケアマネジャーが増えていくことを切に願います。

コロナ禍での開催となり、顔を合わせて人と触れ合うことができなくなっている現状では止む終えないことかもしれません。参集して聴講できた時を恋しく思いました。

この状況の中、オンラインで無事開催された京都府介護支援専門員会の皆様方大変なご苦勞に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

副会長 吉村 春生

令和3年度ブロック活動部主催 「Zoom 主催者向け研修」 活動報告

一昨年より新型コロナウイルス感染拡大の影響により各支部における活動ができない状態が続いていました。また、令和3年度介護報酬改定では介護分野においてもICTを活用することで業務の簡素化が図られるよう推奨されることになりました。

このような状況の中、ブロック活動部では海原業務執行理事のもと、会員向け支援強化を図ることも目的とし、①情報伝達システム ②WEB 会議及び研修開催支援 ③支部関連帳票の整理及び支部活動マニュアル作成と、3つの事業を本格的に始動しました。今回は、②WEB 会議及び研修開催支援の実施内容について報告致します。

「Zoom 主催者向け研修(初級編)」

令和3年5月15日(土)10:00～11:30 Zoom 開催。当初、OMMビル3階研修会場において開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により変更。12名の方にご参加いただきました。内容は、

Zoom 活用について、WEB 会議までの準備:

1. Zoom のインストール
2. アカウント作成
3. ミーティング作成
4. ゲスト(参加者)招待

WEB 会議当日:

1. サインイン・ミーティングの開始
2. 入室許可
3. 基本操作
 - 1) マイクとミュート、2) ビデオ、3) ホストの権限、4) チャット、5) 画面共有、6) 録画機能、7) ミーティング退出
4. ミーティングの終了 その他

受講された方々からは「大変参考になった」とのお声を多数いただきました。

また、次回学びたい内容についてアンケートより

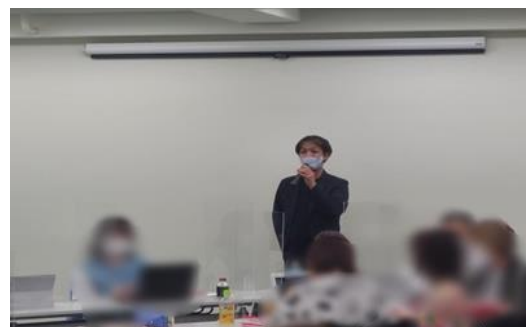
- ・研修開催者としてグループセッションや事前質問の準備等
- ・初級編でもふれていただきましたが、トラブル発生時の対処方法
- ・何が出来るのかまだ理解していません。次も参加します
- ・ついていくのに必死ですが、研修会開催を目標に、次回もぜひ参加したい等の意見をいただきました。

「Zoom 主催者向け研修(初中級編)」

令和3年7月24日(土)10:00～12:00 OMMビル3階研修会場 20名ご参加いただき、ブロック活動部役員6名でフォロー体制を形成しました。

内容について

1. Zoom 研修会におけるトラブル回避方法(初級編の復習を兼ねる)



2. Zoom のブレイクアウトルームの設定と運用方法

3. Google ドライブによるアンケートフォームの作成方法

I. Zoom のブレイクアウトルームの活用方法 1.ブレイクアウトルームの使い方 2.オプション機能

II. WEB アンケートの作成方法～Google フォーム編～ 1.Google アカウントの作成 2.Google フォームの設定 3.タイトルの作成 4.設問／選択肢の作成 5.デザインの設定 6.詳細設定 7.公開設定 8.回答結果の集計。

初中級編は参集で開催し、受講者にはパソコンを持参していただき、操作方法を体験していただきました。途中、Wi-Fi 接続の不具合による対応等の場面もありましたが、無事終了することができました。

アンケートより今後学びたい内容について、次のようなご意見いただきました。

・実際の法定外研修の開催のアドバイスなど聞きたいです。

・法定外研修を主催できるようになりたいので今後ともご指導ください。

・始めの接続の部分でうまくいかず、講義に耳を傾けることができなかった。基本的なことから学びたい。

・自然災害発生時における業務継続計画の作成について。

・初心者用の Zoom を学びたいです。

・第 3 回で予定して頂いている内容を是非お願いしたいです。よろしくお願い致します

・Zoom 研修を継続して受けたい。

・アンケートの質問事項はどのようなものがあるのか？等、研修をする上での内容がわかるものがあれば学びたい。

・Zoom でのちょっとしたアイスブレイク手法等。



「Zoom 主催者向け研修(実践編)」



令和 4 年 1 月 29 日(土)12:30～16:30 OMM ビル3階研修会場にて開催。実践編ということで、実際の介護支援専門員資質向上研修(法定外研修)においてホスト機能を 3 名の参加者へ体験していただく為、ブロック活動部役員 7 名で役割分担してフォロー体制をとりました。

具体的に Zoom ホスト機能一連の流れをレクチャー。入室管理やチャットの活用、氏名・介護支援専門員番号の変更方法についてはフォローを実施。

また、音声が出ない・画面に顔が表示できない等のトラブルにおいても解決策をその都度、参加者へレクチャーを実施。終了後には参加者からは「今後、支部開催への自信に繋がりました」とのご意見をいただきました。

今年度、各支部において Zoom を使用した介護支援専門員資質向上研修(法定外研修)を取りこぼさなく、開催できることを目標としてきました。次年度も引き続き同内容を継続していくとともに、介護支援専門員の業務、また「自然災害」や「感染症」における ICT 活用についても企画していきたいと思います。

ブロック活動部 福嶋勝一郎

府民情報発信部の 押しかけインタビュー



今回は摂津支部の中山深雪さんにインタビューさせていただきました。

Q： こんにちは！今回は摂津支部長の下村さんから、仕事以外にもいろいろな活動をされているとのことでご紹介いただきました。お話し楽しみです。よろしくお願いします！まずは、どんな活動されているのか教えていただけますか？

中山： シングルマザーの支援(母子寡婦福祉連合会)や認知症カフェ交流会の活動などを行っています。

Q： 仕事もお忙しい中、活動を続けておられるのは、どんな思いをお持ちなのでしょう？

中山： シングルマザーの方々の支援は、自分が経験していることから、「もっと活躍してほしい」という思いがあります。認知症カフェのことは、仕事に関係が深いですが、自分の住む吹田市民として活動して職場の自治体での参考にもしたいと思って参加しました。

Q： なるほど、勉強をかねての参加ですね。素晴らしいです。

中山： 職場の法人の地域貢献活動もさせていただいて、摂津のこども食堂にもかかわっています。

Q： お聞きしていると、本当に幅広い活動をされていますし、このお仕事がとても好きなんだなあと感じます。ケアマネジャーになられたのは、どんな経緯でしょうか？

中山： 私は 22 年前、祖母が脳卒中になり介護をすることになったことが介護の資格をとるきっかけになりました。当時、祖母の介護をしながら着物の着付け教室に通っていてその先生に「ヘルパー資格」(当時はヘルパー 2 級、3 級)をとって見たらどうかと言われて、資格をとって市の登録ヘルパーとして働き始め、その後は病院のケアワーカーを経て介護福祉士を取得しました。2004 年に介護支援専門員になり、クリニック・デイケア・ヘルパーステーションを併設しているケアプランセンターに勤務しました。そこを退職後にケアプランセンターの管理者になったのは 9 年前です。

Q： 管理者としては、どんなやりがいを感じていますか？

中山： 一言でいえば「スタッフの成長が楽しみ！」です。

Q： お仕事も楽しんでおられるのが感じられますね。お仕事以外のことでは、何か夢や目標などはありますか？

中山： 私はとにかく、人と関わるのが大好きです。そして先ほどお話した「こども食堂」と「認知症カフェ」のコラボの実現を目指しています。これは、所属している法人の活動としても貢献できると思っています。それから、趣味ですが・・・着物のリメイクが趣味で高齢の方のタンスに眠っている着物を色々なものにリメイクしてファッションショーを開催する夢を持っています。

Q： 着物のリメイク！素敵です。高齢の方はとても喜ばれると思います。今日は楽しい時間になりました。ありがとうございました。



写真は中山さんの着物リメイク作品です。

仕事も趣味も、どちらも同じように楽しんでおられる中山さん。今回のインタビューでも、素敵な笑顔でお話してくださいました。中山さんの笑顔で、高齢者の笑顔の数がどんどん増えていくように思います。夢実現、応援したいと思います。

府民情報発信部 小宮悦子

シリーズ 認知症の方へのケアマネジメント(第 2 回目)

家族の立場からケアマネジメントを振り返る

認知症のケアマネジメントについて学ぶ機会や有識者から教示を受ける機会もあり、日々励みにさせて頂いております。

しかし、経験値が上がるにつれ認知症対応のスキルが比例するかというとなかなか難しいもので、頭を抱える事象も数多くあります。「十人十色」、毎日が「そうか、なるほど」と改めて奥深さを感じております。

本人の言葉の意味が理解できた瞬間、その人の歩んで来られた人生の深い言葉である事に胸が熱くなる場面も多いです。しかし、穏やかに対話する場面ばかりではなく、時には鬼の形相で興奮、暴言を吐かれたりと、目まぐるしい感情の起伏に疲弊してしまう支援者も少なくありません。

身近な人にはづらい状況です。長く訪問している馴染みのヘルパーさんであってもモチベーションが上がりにません。家族であればなおの事、冷静な対応をする事も難しいのは当然でしょう。

私自身も認知症を持つ人の家族です。家族の立場から見たマネジメントの気づきを紹介いたします。

実父は、年末に入院をきっかけに記憶障害が目立ち始め、医師や看護師に手間をかけるようになりました。例を挙げると、都度マスクの着用や消毒を忘れ、食事や服薬をしていないと言い、頻回にナースコールを鳴らす等急性期病棟では手のかかる患者になってしまいました。

母や私にも頻回に電話をして同じことを繰り返すので、父に対し言葉が荒くなる事もありました。父の威厳が無くなってしまいうように悲しいやら、対人援助職である自分自身のそんな対応が情けないやらの入院生活でした。約 1 ヶ月の入院中、認知症の進行が心配で許可された短時間面会を毎日続け、不穏にならないよう願いました。それでも、筋力低下を含め父には失うものが多い結果となってしまいました。大きなリロケーションダメージだったと思います。母は、退院後の父の変化に対応できるか不安が強い様子。80 歳を過ぎて初の介護体験をすることになり、自身も持病があります。娘 3 人は別居なので、当然のことながら、在宅療養の担い手としては不安です。

退院して 1 ヶ月半が経ち、今は全員が少しずつ状況を飲み込みながら環境を整えています。父は馴染みの環境に戻り穏やかに過ごしていますが、現実には老々介護を絵に描いたような生活が始まり、母は案の定、体調を崩しました。早速、介護負担の軽減をしなければ！と訪問介護で掃除や入浴介助と夕飯の配膳、引き続きのデイケアでのリハビリ等お願いしました。冷凍弁当を定期的に配送してもらっています。

家族の立場から認知症ケアマネジメントを考えた時に、

- ・ 冷静に対応策を提案する事は出来ても、つい「個別性の尊重」を求めすぎてしまう。
- ・ 担当ケアマネジャーに細かな情報を伝えてプランに反映して欲しいと思うが、気兼ねがあり家族(私)が動いてしまう。
- ・ 本人(父)の望む暮らしを考える以上に介護者(母)の体調に重きをおいて支援を考えてしまう。でも施設入所は簡単には決断しがたい。

という家族の視点がある事に気づきました。

今まで「その人らしく生きるための支援」を心がけてきたつもりでしたが、当事者になって見えてくる課題に気づき、今後のマネジメントに活かせる学びを得たように思います。

大阪府訪問看護ステーション協会推薦理事 塩津浩美

令和 4 年度 学術研究部 研修について

令和4年度、学術研究部では介護支援専門員としてケアマネジメントプロセスにおいて重要な、「質の高いアセスメント力」と、新型コロナウイルス感染症のみならず新興感染症に対し、必要な専門的知識を習得し、「医療との連携力」を強化し、要介護者等が自立した日常生活を営むために必要な専門的知識の習得を目標に公益事業の研修の回数を増やしていく予定です。今回は、上半期を中心に開催予定の研修をご案内します。申し込み方法等の詳細は、開催日が決定し次第、ホームページに掲載しますのでご確認ください。

開催予定の研修

カテゴリ	研修名称	開催予定月
1) アセスメントの向上をめざした研修	①「楽しくアセスメントしよう！ (OCMA シートの活用) 全 2 回	4 月 12 月
	②「課題整理統括表と評価表を学ぶ (習熟編) 全 2 回	4 月 12 月
2) 医療との連携強化	①「感染症対策」シリーズ 1. 病気を知る、対応を学ぶ	9 月
	2. 連携する	11 月
	②「難病の理解について」	10 月
	③「大阪府訪問看護ステーション協会 との共催研修」	調整中
3) 日常生活を営む要介護者等への支援に必要な専門的知識習得の研修	①「財産管理について」	5 月 7 月
	②「看取り(人生の最期を支える)について」	5 月 7 月

学術研究部 川東 仙司

日本介護支援専門員連盟コーナー

日本介護支援専門員連盟では、昨年総選挙後 **日本ケアマネジメント推進議員連盟** 所属議員の大幅な変更があり、再編成に取り組んでおります。次回のトリプル改定に向け、連盟からの働きかけも重要になっています。また、今夏7月には第26回参議院議員通常選挙を控え、連盟では、**日本ケアマネジメント推進議員連盟** 所属の以下6名の先生方を推薦しています。①**福岡資麿**(佐賀県)②**鶴保庸介**(和歌山県)③**末松信介**(兵庫県)④**園田修光**(全国比例)⑤**自見英子**(全国比例)⑥**片山さつき**(全国比例)。居宅介護支援費自己負担導入阻止・介護支援専門員の処遇改善や地位向上・研修制度問題・国家資格化問題等を最重要課題として活動します。広く関係議員等に我々の思いを伝え、ロビー活動等を通じ介護支援専門員ばかりではなく国民の福祉向上に努めたく思っています。それには**会員各位のご協力とご支援**、**「数の力・組織力」**が大切です。介護支援専門員の力を結集するため、日本協会と日本介護支援専門員連盟に是非ご加入いただきご支援をお願いいたします。ご加入には**連盟ホームページ**の入会案内・入会申込書を活用下さい。**示せ！ケアマネの力！ケアマネの願いを実現しよう！！**

入会金 0 円、年会費 3000 円。 【問合電話】 072-473-1710
入会申込は、【FAX】 093-932-0532 までお願いします。

URL <http://jcmr.tremer.jp/>
E-mail info@jcmr.tremer.jp





研修センター事務局便り



『令和4年度大阪府介護支援専門員法定研修について』

標記研修の実施について、大阪府の HP 及び当協会の HP を確認していただきますよう、お願いいたします。

研修種別・課程		実施団体	実施時期
実務研修(第 24 回)		大阪府介護支援専門員実務研修 共同企業体	令和 4 年 1 月～
更新研修	実務未経験者向け	(公社)大阪介護支援専門員協会	令和 4 年 6 月～
	実務経験者向け	【専門研修課程Ⅰ】 (公社)大阪介護支援専門員協会	令和 4 年 4 月～
		【専門研修課程Ⅱ】 (公財)大阪 YMCA	令和 4 年 4 月～
再研修		(公社)大阪介護支援専門員協会	令和 4 年 6 月～開始コース 令和 4 年 8 月～開始コース
主任介護支援専門員研修(前期)		(公社)大阪介護支援専門員協会	令和 4 年 4 月～
主任介護支援専門員更新研修		(公社)大阪介護支援専門員協会	令和 4 年 4 月～

※更新研修(実務未経験者向け)について、有効期間満了令和 3～5 年の方の応募を満たしたため、令和 4 年度は、有効期間満了を令和 6 年に迎える方の申込受付は行っておりませんので、ご了承ください。

＝令和4年度研修から、研修の講義部分でオンライン(e ラーニングによる受講)が開始されます＝
e ラーニングによる講義受講を希望される場合、「e ラーニングの諸注意」に詳細を記載していますのでご確認ください。

演習部分は、時間短縮(e ラーニングや課題作成による講師部分を除くため)で参集にて行います。

申込時に e ラーニング又は課題作成を選択いただきます。申込後の変更は出来ませんので、ご注意ください。

※介護支援専門員証等の特例適用(特例措置)については、大阪府ホームページ「新型コロナウイルス感染症に係る介護支援専門員証等の特例措置について」をご確認ください。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/kaigoshien/care/tokureisochi.html>

※新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る法定研修実施方法等については、大阪府ホームページ「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた対応について」をご確認ください。

http://www.pref.osaka.lg.jp/kaigoshien/care/corona_care.html

※大阪府以外の都道府県に登録されている場合は、その登録地(都道府県)へお問い合わせください

◎その他会員の皆さまへ

協会会員の方でお亡くなりになられた方がおられましたら、当協会事務局にご連絡いただけますようお願い致します。

第 130 号(発行日 令和 4 年 4 月 1 日)

編集／発行 公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 TEL 06-6943-0577／FAX 06-6943-0571

〒540-6591 大阪市中央区大手前 1 丁目 7 番 31 号 HP アドレス=<http://www.ocma.ne.jp>

OMM ビル(大阪マーチャンダイズ・マートビル)3 階 Mail アドレス=info@ocma.ne.jp

